



公益財団法人

国際文化フォーラム
THE JAPAN FORUM

国際文化フォーラム通信

2011年7月

no. 91

小さな発見 大きな学び

●毎年夏、TJFが中国で実施する「サマーキャンプ」には、中国語を学ぶ高校生90名が参加します。10日間にわたり、中国語の授業や家庭訪問、同世代との交流などさまざまなプログラムが用意されています。

●これらの体験を通して、中国に対するイメージはどう変わったのでしょうか。彼らは何を見て、何を感じ、考えたのでしょうか。彼らが日々ノートに綴った「つぶやき」を紹介します。

【特集】

小さな発見 大きな学び……………2

- わたしが見た中国
- 10日間の体験から学んだこと
- ふれあいから
関わり合うプログラムへ

TJFニュース……………10

Ringoウェブ、オープン!!
好朋友経験交流会が開かれました
学校で中国語を学べない……
「ゆうたくんとみなみちゃん」を新設
……ほか

お知らせ……………16



わたしが見た中国

特集 小さな発見 大きな学び

TJFが2007年から企画、実施しているサマーキャンプ(漢語橋:日本の高校生サマーキャンプ、中国国家漢弁主催)の参加者は、授業や課外活動、あるいは独学で中国語を学んでいる高校生です。教師に勧められたり、OG、OBの話を聞いて応募してきます。

彼らが中国や中国語に関心をもったきっかけはさまざまです。たとえば、『三国志』、中国の書、二胡、カンフーなど中国の文化に対する関心、北京オリンピックや上海万博など、新聞やテレビの画面を通して伝えられる発展した中国の姿、あるいはホームステイで中国の人を受け入れたことやアルバイト先で中国の人たちと一緒に働いた経験だったりします。

大半の参加者にとって、サマーキャンプが初めての中国訪問です。応募用紙の動機の欄には、教師の話やニュース、テレビを通じて中国を知るのではなく、実際に自分の五感で中国を体験したいという意気込みが綴られています。

TJFが行ったアンケートによれば、多くの人が中国の人たちについて、性格がきつ

い、意地悪、冷たい、無愛想、自己中心、怖い、日本人を嫌っている・軽蔑している・馬鹿にしていると答えています。中国についても、汚い、治安が悪い、危険、伝統的な町並みはなくビルや住宅街ばかり、まだまだ途上国、排気ガスとスモッグで喉がやられる、など悪いイメージを多くもっていました。

そんな先入観のままに中国に行った彼らはどんな体験をし、そこから何を感じたのでしょうか。

日々の発見

北京で実施した、2010年のサマーキャンプでは一日の終わりに参加者全員が、その日発見したこと、疑問や不思議に思ったことをつぶやきとしてポストイットに書き、それをノートに貼って「つぶやきノート」をつくりました。また、帰国後、自分で撮った写真のなかから数枚を選び、コメントをつけて提出してもらいました。

つぶやきノートと写真を見ると、参加者が、何を発見し、どのように考えたのかが見えてきます。

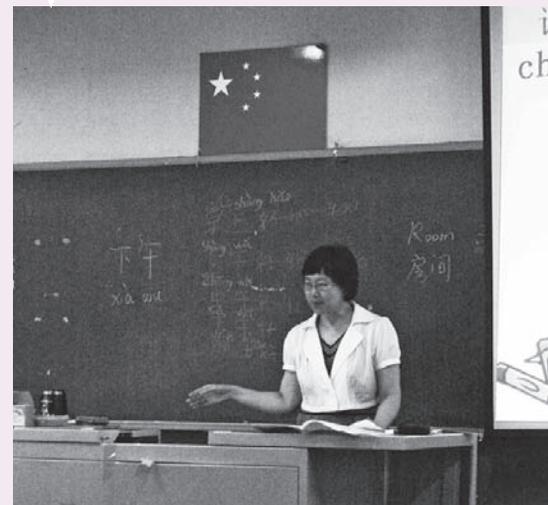
先生の中国語をしっかりと聞く。



講師の先生と仲良くなりたいから使える中国語は使う。

一言だけでも先生の
いっていることを
聞き取りたい。

なぜすべての教室に国旗がある？



学校の朝食です。温かいものや常温のもの、水分を多く含むもの(キュウリやスイカ)、油っぽいものが多い。牛乳も常温です。健康管理重視です! さすが、漢方の国。



@ 学校生活

前半4日間は、北京経済技術開発区実験学校の宿舎で生活しながら中国語の授業です。

中国の高校生がどのような生活を送っているのかを体験します。

| | | | | | |
|----|---|----|----|-----|--------------------|
| 亚晨 | 男 | 文史 | 01 | 汉族 | 110108199008257409 |
| 陈爽 | 女 | 文史 | 01 | 汉族 | 110101199206202029 |
| 马晨 | 女 | 文史 | 01 | 回族 | 110105199201271143 |
| 婧宁 | 女 | 文史 | 01 | 满族 | 11010519920410042X |
| 东刚 | 男 | 文史 | 01 | 汉族 | 110103199205050935 |
| 三伊 | 女 | 文史 | 01 | 汉族 | 110101199203264523 |
| 一杭 | 女 | 文史 | 01 | 满族 | 22020419910312032X |
| 言一 | 女 | 文史 | 01 | 汉族 | 110105199204068626 |
| 子兰 | 女 | 文史 | 01 | 蒙古族 | 110101199206105026 |
| 策 | 男 | 理工 | 02 | 汉族 | 220102199107201436 |
| 宇 | 男 | 理工 | 02 | 汉族 | 510107199202044214 |
| 然 | 男 | 理工 | 02 | 汉族 | 110105199205081515 |
| 燕 | 女 | 理工 | 02 | 汉族 | 220602199209151289 |
| 一 | 男 | 理工 | 02 | 汉族 | 110103199207070956 |
| 一 | 男 | 理工 | 02 | 汉族 | 110105199008171116 |
| 翔 | 男 | 理工 | 02 | 汉族 | 110101199112192018 |

売店の人が本当に優しかった。

日本のお菓子がたくさんあった。



教室の壁に貼ってあった名簿には、名前と番号の横に「漢族」「蒙古族」などといちいち書いてあるのが気になりました。

アイスクリームは安く、1元のものもありました。日本のアイスクリームの7分の1ほどの値段です。

学校の売店。売店のお姉さんのお金の渡し方が怖かった。でも、中国語で話しかけたら優しかった。

教室に時計がないのはなぜ？

ニーハオトイレで「你好」と言うと、本当に言い返してくれた。

ニーハオトイレ。見ての通りドアがなく、トイレトペーパーもありません。

一度体験するとそれほど恥ずかしくない。



牛乳パックがビニールだった！フォークで穴を開けて飲みます。

中国の人たちにとってニーハオトイレで身体を見せるよりも、日本の露天風呂で身体を見せるほうがありえないということに本当にびっくりした。

ワニポースの最新巻の中国版がいもうあった。



教室にあった頭髪の規則のポスター。男子も女子も授業中に邪魔にならないように短くするか束ねるかしなければならぬみたい。

話題
chēng
称

@買い物

スーパーと卸売市場で買い物をしてもらいました。
市場では、前半の授業で習った表現を駆使して
値切り交渉に挑戦。

値下げできたー！

日本では無言で買い物を
することが多いですが、
ふれあいのある買い物も
楽しいと思いました。



スーパーに
量り売りの商品が
大量にあった。

320元を100元に値切った子もいたし、
なんと500元を100元にした子もいた！



スーパーでは、天井近くまで商品が積まれていました。
買い物中に棚の上からダンボールが落ちてきて、
かなり危なかったです。

@ホームビジット

実験学校の教職員や在校生の家庭を
5名ずつ18グループに分かれて訪問します。
事前にあいさつや自己紹介の仕方、質問などを準備しました。
訪問後、全員に質問への答や気づいたことを
記録してもらいました。

大きな門があり、ガードマンがいて
豪華だけど、前の道には、
出稼ぎの人がたくさん座り込んでいて
格差を感じました。



日本では遠慮して
あまり食べないのですが、
中国ではそれは
失礼にあたると知りました。

日本では冷凍したライチしか
見たことなかったのに、
ここでは新鮮なライチで
驚きました。



中国の人たちは あたたかい涼



中国の家に玄関はない。
土足で入れてもらったけど、
普段はサンダルのようなだった。



3人家族と聞いて
あらためて
一人っ子政策が
あることを感じた。



家族の写真がたくさん貼ってあった。

10日間の体験から学んだこと

10日間という短い期間ながら、参加した高校生たちが、さまざまな出会いや新たな発見をし、それぞれの感性で、自分なりに受けとめたことが以下の感想から伝わってきます。

つたない中国語でも伝わった

中国の人はドライというイメージがあったけれど、自分から積極的に会話すれば、うち解けることができるということがわかりました。

家庭訪問したときに、日本人のイメージが悪くならないようにとそればかりを考えていましたが、私たちを温かく迎え入れてくれました。「以前は日本が好きではなかったが、このような(家庭訪問)機会が増えると嬉しい」と言われ、自分のつたない中国語でも会話ができたと喜びとともに、日中の中にある問題を解決し日中の架け橋を築いていかないといけないという使命感を感じました。(I.A.さん/高3/愛知)

文化と“異文化”

今までも異文化にふれる機会は国内にいてもたびたびあったのですが、そこまで深く考えず直感などで理解したつもりでいました。おそらくそれは国内にいて、私たちが文化であり、向こうが“異”文化であったから安心しきっていたのだと思います。ですが、この10日間は中国では私たちが異文化の人間でした。そのため多くの現地の人が私たちに中国の歴史や文化、習慣などをていねいに教えてくださいました。そこでまた思うのです。私たちはそこまでちゃんと日本のことを伝えていただろうか、と。

中国の人びとと話をしていて、みんな中国に誇りをもっているのだと感じました。だから、たくさんの人たちが私たちに中国についてもっと知ってもらいたくて教えてくれたのかなと今頃になって思います。現地の高校生たちに日本は好きですかと聞けば、多くの子が好きだと返してくれました。日本の漫画などのサブカルチャーや風景が好きだといってくれる子や語ってくれる子までいました。はたして逆の立場になったとき、私はそういったことができるのでしょうか。

とても初歩的なことではありますが、自分の国を好きになり理解しなければ、他の国の文化を理解しようとしても無理だと思いました。日本や中国、もちろんそれぞれ文化は違いますが、異文化に触れ理解することのできる入口や方法は共通なのではないか、と今回のキャンプを通し学ぶことができました。(M.S.さん/高2/神奈川)

小さな発見から考えたこと

中国に着いた私はとにかく中国語での会話をしたくて、さっそく友人と食堂を担当してくれた方々に簡単な質問を試してみた。それまで食

@市内

万里の長城、天安門広場、故宮などの観光地だけでなく、早朝の天壇公園や、北京生まれ北京育ちの「老北京」が暮らす下町「胡同」を訪れました。

近代的な中国と昔ながらの中国の二面を実感します。

事(給食)を担当してくれる方はおじさん、おばさんと勝手に思い込んでいた私は、彼らが18～20歳程度の私たちと同年代であることに驚いた。そして、交流会の際に中国では「18歳以下は労働してはならない」という法律があることを知り、彼らが働ける年齢になるとすぐに働き始めたのだと知った。そのときは、「私とほぼ変わらない年なのに働いて偉いなあ」程度にしか思っていなかったのだが、その後の交流会や班会議での班員の発表、市場での買い物体験等を通して同じような発見が増えていき、それらが私のなかで少しずつ疑問へと変わっていった。

実験学校の生徒は英語で授業を受け、私たちのあいさつや質問に流暢な英語で答える。別の17歳の生徒は来春から東京大学へ留学するそうだ。雑技団のなかには、私よりも明らかに年少の子たちが次々と軽業を決めていく。お茶屋のレジではやはり年齢に大差のない女性が英語、中国語、日本語とドル、元、円を瞬時に使い分けていた。市場では中国には存在しない私の漢字を一生懸命読み取ろうとしてくれた少女(店員)がいた。彼らに共通していることは、日本の高校生と同年代であることだ。

働いている人には彼らのプロとしての意識や誇りがあるだろうし、高学歴の学生もまたこれからさまざまな面で活躍していくのであろう。私は決して「勉強ばかりで可哀そう」「まだ遊び盛りなのに働いているなんて」といった同情を述べたいわけではない。ただ、彼らの進んでいる道は彼ら自身の意思で選びとられているものだけではない、むしろそうすることができるのは裕福で優秀な一部分の人でしかないのではないだろうかという考えがどうしても頭の中をよぎるのだ。しかしこれらについて真剣に考えていくのに、私の語学力、中国の文化や歴史背景への理解等は現段階ではあまりに乏しい。これからの中国語を含めた学習のなかで彼らの世界観を少しでも共有できるような人間に成長していきたい。

物理的な「年齢」ではなく、自分の道を語り合うことのできる彼らと同年代の精神の「年齢」に達することができればよいと思っている。

(A.M.さん / 2年 / 千葉)

私の生き方を変えた10日間

今回の研修を一言で表すならば、「衝撃」ということば以外、思いつきません。研修に行く前の私は中国について大体理解しているような勘違いをしていました。「こんなもんだらう」というような恥ずかしい過信をどこかにもっていたと思います。その過信が北京の空気にもつれた瞬間に崩れた衝撃は、今後の私の生き方を大きく変えた気がします。食事、中国人の先生の授業、中国の生徒との交流、家庭訪問、天安門やオリンピックスタジアム見学。どの体験も初めてづくしでわくわくしました。でも私が一番衝撃を受けたのは胡同の見学で



看板にある「狗肉」の文字を日本の漢字に置き換えると……「犬肉」!?

犬を食べる習慣がない僕たちからすると「おいしくなさそう」「かわいそう」という感じがしますが、これも立派な中国文化の一つ。

公園がみんなの交流の場所になっている。日本じゃありえない。



胡同では、市民が外でテーブルの周りに集まり、のんびりと笑いながら話をしている。メディアの情報を受信するだけでは気づくことが難しい。

天壇公園には朝にもかかわらずたくさんの方がいて、バドミントン、ダンス、太極拳などを楽しんでいました。私が年をとったら近くに住みたい場所ナンバー1です。

した。ふとしたときに感じる臭いや、胡同に住む人びとの冷やかな視線が、今まで経験したことのない世界でした。胡同ではニーハオトイレと呼ばれる壁のないトイレを見に行きました。その時二人の男の人が私たちの団体を見て一円玉を投げってきたとき、両国の間に広がる深い溝を初めて肌で感じました。「拾えよ」とでも言っているような眼で見られているのを感じたとき、少し怖さを感じた後に納得し



街には多くの高層マンションが立ち並んでいましたが、胡同のように昔ながらの街並みも残っています。同じ市内の中でも、まったく異なった生活環境の地域があるということが、日本では考えられないと思います。



胡同の台所。
ホームビジットで訪れた裕福な家の人も胡同の家の人も私たちが温かく迎えてくれたし、とても仲良し家族だった。家族を大切にする中国の人の精神を感じた。

想像していた以上に万里の長城が広くて驚きました。全てをめぐするには1年以上かかるそうです。



フートは思、た= 通りぬ、ちゅアステキなとこで、
木スキ (= なりまし)て。

バスの停留所です。
中国人には「並ぶ」という習慣がなく、このような光景はいたるところで見られました。



たのを覚えています。北京に着いてから私たちが温かく迎えてくれた人たちは10日間で知ることのできる最大の中国の人たちの姿であって、広い中国のほんの一部だったというだけのこと。そのことに気がつくチャンスを与えてくれた両親と、関わった人全員に感謝します。

(K.S.さん/高3/北海道)

また行きたい国、中国

今まで一番行きかった国、それが「中国」だった。テレビで見ることがあったが、実際に行ってみると、テレビで感じる以上にいろいろなことがわかり、そして経験もした。

中国では本当にいろいろな人にお世話になった。食堂でご飯を作ってくれた人たち、金先生や他の先生方にはたくさんの中国語を

@交流

実験学校の生徒と一日交流をしました。
まず、切り絵、ひょうたん笛、太極拳のグループに分かれて文化体験をした後、昼食をとりながらの交流の時間です。日本語、英語、中国語、筆談を交えて、聞きたいと思っていた、今流行っていること、勉強法、趣味など身近なことについて話をしました。その後、一緒にスーパーに買い物にも行きました。

中国の子はみんなフレンドリー

筆談が効果的だった。



私は毎日学校で勉強してるんだから、身の回りの世話は親にしてほしいという気持ちがあったが、自分のことは自分でやりつつ、私たちより長い時間勉強している中国の生徒の生活力、向学心に敬服した。



ひょうたん笛の体験授業。
吹くのが難しくちゃんとした音が出せませんでした。

日本のマニアックなアニメなどはやっていることがわかって、勉強ばかりしているという先入観を変えることができました。

マンガ(NARUTO、スラムダンク)、任天堂DSを中国の高校生がよく知っていることを知った。



帰る前日に、中国の高校生がわざわざホテルまで見送りに来てくれました。中国の人の考え方や意識の高さに圧倒され、これから僕も頑張ろうと思いました。



太極拳の体験授業。

教えていただいた。それから、同室になった先輩や友だち、仲良くしてくれた友だち。中国語というつながりで出会えてとても嬉しかった。これからも、中国語を続けていく気力をもらったと思う。

中国という国は本当に広い。領土、文化、ことばなど日本に住んでいては理解できないことが多い。似ているようで互いの国はきっと違うところを多くもっている。悪い面、良い面色々あると思うけれど、それを自分の目で見てこそ少しでも仲良くなれる。そうでなければ、

互いに話が通じるはずもない。私は中国に行く前と行った後では、中国に対するイメージが変わった。それは、実際に中国に行き中国人と会ったからだ。たしかに、悪い面も見なかったわけではない。しかし、それ以上に良い面も見た。だからこそ、また行きたいと思った。もっと学びたいと思った。そして、中国人ともっと仲良くなりたいと思った。

(H.S.さん/高2/東京)

※TJFが一部抜粋しました。

ふれあいから 関わり合う プログラムへ

「ガイドブックやインターネットで見たり読んだりしたもの、実物は全く違うものだった」「マスコミに流れる情報だけで、先入観をもってはいけなさと痛感しました」

感想文のことばから、訪中前にもっていた先入観が覆され、自分の眼で見た中国をしっかりと心に刻みこんでいることがわかります。

サマーキャンプの参加を通して、さまざまな事象や人の行動を観察し、自分が知っていることと比較して、なぜ違いがあるのだろうか、あるいはどのような関連があるのだろうかを推測しています。さらに、自分が思っていたことと違う背景には何があるのか、もしかしたら価値観そのものが違うのではないかと考え始めた人もいます。彼らは、こうしたプロセスを経て、文化事象を見る視点を身につけていったのです。

1. 見方を変えた人とのふれあい

ところで、冒頭に挙げた、彼らの中国や中国人に対するイメージはどのように変わったのでしょうか。2010年のサマーキャンプ終了直後に実施したアンケートでは、中国に対する見方が変わったとした31名の多くが、汚い、治安が悪い、まだまだ途上国であると想像していたのに、思っ

たより安全で近代化しているというふうに変わったと述べていました。

また、90名中64名が、中国の人びとに対しても印象が変わったと答えています。怖い、きつい、無愛想、反日的といったマイナスのことばはまったく影を潜め、優しい、親切、日本に対していいイメージをもっている人が多い、心が広い、などプラスのことばが並んでいました。

中国語の先生、食堂で働く自分と同世代の人たち、宿舎の管理人、購買部の人、家庭訪問を受け入れてくれた家族、高校生、胡同で乗った人力車の車夫、市場で値下げ交渉をした店員……。自分たちが学んだ中国語を使って話をしたそれぞれの相手を頭に浮かべながら答えたのではないのでしょうか。

サマーキャンプの一番の収穫は何かという問いに対して中国語力の向上に続いて、中国の人びととの交流、特に同世代の高校生との交流が挙げられました。「中国の人ともっと仲良くなりたいと思った」と答えた参加者も数多くいました。

2. 共同活動を通じた 人との関係づくり

人との関わりがより強まり、交流の内容が

深まれば、より大きな変化が生まれるのではないか。そう考えて、今年のサマーキャンプは、「互いのことばを学ぶ日中の高校生サマーキャンプ」をテーマに掲げ、中国東北部の吉林省長春市で実施することにしました。日本の高校生90名、日本語を学ぶ長春市の高校生46名が参加し、引率者も含めると150名にのぼります。参加者は、長春での対面を前に、TJFが運営する世界の中高校生の交流ウェブサイト「つながー」を使って自己紹介を始めています。

日中の高校生がともに寝泊まりして活動する試みは、2008年にも一部実施しましたが、今回は1週間にわたって、それぞれのことばの授業とは別に、共同活動を行います。サマキャン文化祭に向けて、日中の高校生がそれぞれ学んだことばを駆使して、お互いの考えやアイデアを伝え、意見の違いを調整しながら企画を創りあげます。そのほか、農村の小学校を訪問して小学生と交流したり、市場で買い物に挑戦したりする活動があります。

参加する高校生の考え方や価値観にどのような変化が起きるのか、期待して見守っていききたいと思います。

2011年 互いのことばを学ぶ日中の高校生サマーキャンプ

期間：2011年7月25日～8月3日

場所：中国吉林省長春市 長春日章学園高等学校

参加者：中国語を学ぶ日本の高校生90名、日本語を学ぶ長春市の高校生46名

日程：

| | |
|------|--|
| 1日め | 午後：日本の高校生のオリエンテーション(自分の目標づくり、全体のルールづくり) |
| 2日め | 午前：日本の高校生、北京に向け出発／午後：サマーキャンプの主催者である中国国家漢弁(北京)を表敬訪問／夜：長春日章学園高校に到着 |
| 3日め | 午前：日中合同でプレ活動(身体とことばを使ってうちとける) 午後：中国語と日本語の授業／夜：振り返り(その日に気づいたこと、思ったこと、覚えた表現、言いたくても言えなかった表現、これから言いたい表現を書き出す) |
| 4日め | 午前：中国語と日本語の授業／午後：ぶんぶんゴマづくりのワークショップ、 どンドン使っちゃおう中国語!(近くの公園などに出かけ、 中国語を使って長春市民との会話に挑戦)／夜：振り返り |
| 5日め | 午前：中国語と日本語の授業 午後：サマキャン文化祭準備の共同活動／夜：振り返り |
| 6日め | 午前：偽満皇宮博物院見学／午後：農村の小学校訪問(ぶんぶんゴマ遊びで交流) |
| 7日め | 午前：家庭訪問／午後：市場で買い物体験／夜：振り返り |
| 8日め | 午前・午後：文化祭準備の共同活動／夜：振り返り |
| 9日め | 午前：文化祭準備／午後：文化祭、歓送会 |
| 10日め | 午前：日本の高校生、北京経由で帰国 |